

教育だより 第42号 Oct 2024

目次

ニュース・イベント	(全体) 誰ひとり取り残さない教育改善クラスター事業戦略の完成と HP 掲載について	2
ニュース・イベント	(全体) 教育協カウィーク 2024 を開催しました！(9/2～9/13)	3
ニュース・イベント	(全体) 「第 6 回 日本-南アフリカ大学フォーラム (SAJU)」に登壇	4
プロジェクト紹介 基礎教育	(パプアニューギニア) パプアニューギニアで新たに教科書が配布されています！	5
プロジェクト紹介 基礎教育	(モロッコ) 「公平な教育振興プロジェクトフェーズ 2」本格実施フェーズ開始！	6
プロジェクト紹介 基礎教育	(ガーナ) COMPASS 第 1 フェーズ終了・第 2 フェーズ開始	7
プロジェクト紹介 基礎教育	(ナイジェリア) ナイジェリア、10 年ぶりの教育協力を再開！	8
プロジェクト紹介 基礎教育	(ジブチ) 「みんなの学校：コミュニティ協働による教育改善プロジェクト」RD 締結予定！	9
プロジェクト紹介 高等教育	(ウズベキスタン) 「ウズベキスタン・日本青年技術革新センター組織管理・自律発展能力強化プロジェクトフェーズ 2」が開始しました。	9
プロジェクト紹介 高等教育	(ホンジュラス) ホンジュラス国立自治大学(UNAH)にて新カリキュラムの発表イベントを開催	10
プロジェクト紹介 高等教育	(エジプト) 新規プロジェクト！ー「エジプト高専設立」と「マレーシア・マラヤ大学イノベーション分野連携促進」	11
セクター横断・他機関と連携事例	(全体) 「第 28 回教育セクターにおける JICA・コンサルタント勉強会」開催報告	12
セクター横断・他機関と連携事例	(全体) 能力強化研修「子どもの学びの改善」を開催しました！	13
KMN 活動報告	(全体) JICA 算数アプリ「JICAL (ジャイカル)」が完成しました！	14
広報・ナレッジマネジメント好事例	(全体) JICA グローバル・アジェンダ (教育) の動画の英語・フランス語・スペイン語版が完成しました！	15
リレーエッセイ	(全体) インターンの生の声	16

「誰ひとり取り残さない教育改善クラスター」の事業戦略が完成しました。

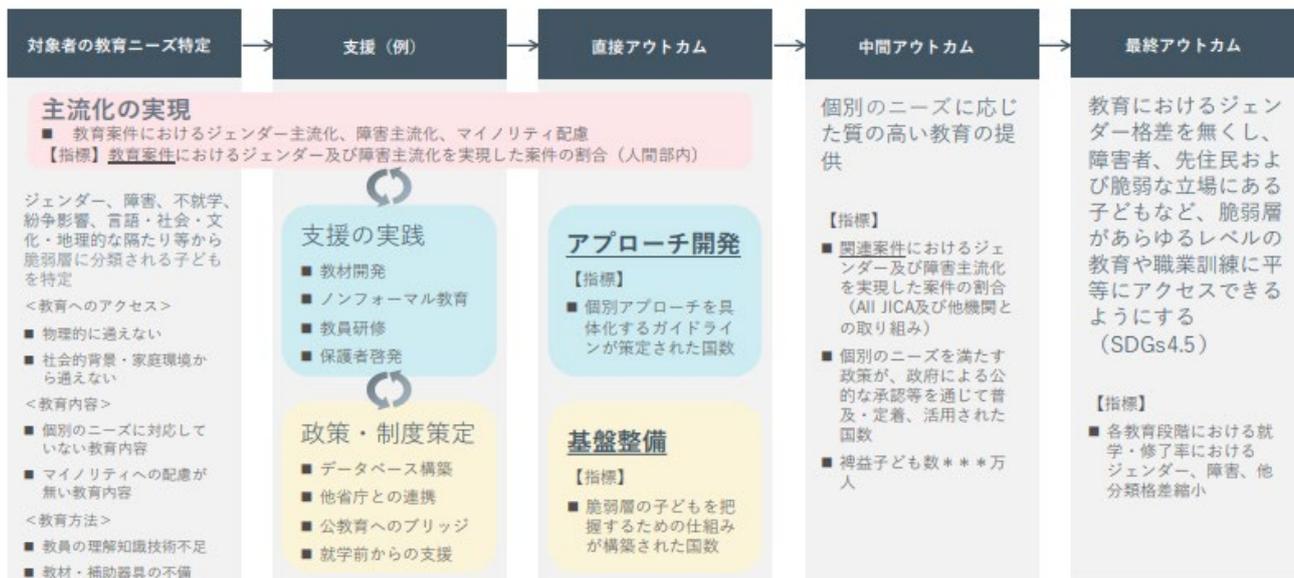
ご意見とコメントを頂いた大学有識者の皆様、開発コンサルタントの皆様に御礼申し上げます。

このクラスターは、ジェンダー、障害、紛争、言語・社会・文化・地理的な隔たりなどで、十分に教育を受けられない脆弱層の子どもたちに対して、一人ひとりの教育ニーズを満たす取り組みを現場でつくり、政策に反映させ、教科書開発・教員能力強化・学校運営改善など他の基礎教育協力のプロジェクトでも、特にジェンダーと障害の主流化に取り組んでいくものです。

人間開発部が担当する技術協力（相手国での実践モデルづくり、制度・政策支援、日本での研修）や無償資金協力（学校や教員養成校の建設）だけではなく、日本の NGO の皆さんによる草の根技術協力でも現地に根付いた活動を行って頂いています。また今後は企業を含め日本のアクターの皆さんとの共創も進めたいと思っています。ご関係の皆さんのご協力をよろしくお願いします。

「誰ひとり取り残さない教育の改善クラスター」のシナリオ

- 脆弱層に分類される子どもは**個別のニーズ**を抱えており、多数を対象としたアプローチ・施策だけでは質の高い学びが保障されない。
- 主流化**を実現することで学びを阻害しない環境を構築し、個々にニーズを充足す**個別アプローチ**を開発し、それを実現する**政策・制度**を整える。



開発シナリオの概念図：誰ひとり取り残さないための支援シナリオ

基礎教育分野の3つのクラスター事業戦略は、こちらをご覧ください。

[教科書・教材開発を中心とした学びの改善クラスター](#)

[コミュニティ協働型教育改善クラスター](#)

[誰ひとり取り残さない教育改善クラスター](#)

人間開発部 基礎教育グループ長 松山 剛士

教育協力について考えるイベント「教育協カウィーク 2024」を開催しました。これは、よりよい教育協力に向けて様々なアクターの知見共有・共創のための意見交換を行うことを目的に、国際教育協カに携わる開発コンサルタント、教育協カ NGO ネットワーク (JNNE)、国際協カ機構 (JICA) の主催で行ったものです。今年で 4 回目を迎えますが、6,941 名の参加登録、2,793 名 (いずれものべ) の参加を得ました。

教育協カウィークは、教育協カプラットフォーム*の活動の一環として毎年開催していますが、関係者の皆様からの自主的な発信・共創の場とすることを狙いとして、企画提案を募集した結果、合計 28 セッションを実施しました。これに伴い期間を 2 週間に拡大し、参加頂きやすいように、夕方から夜の時間帯にかけて開催しました。

セッションは、豊富な事例紹介、協カ現場から得られた知見とアカデミックな視点の議論、新機軸の取り組み、民間企業との共創、教育協カのキャリアパス、そして国際頭脳循環・途上国への留学・子どもどうしの学び合いなどの日本と途上国とのつながりなど、幅広く密度の濃いセッションとなりました。参加頂いた方だけでなく、企画・登壇頂いた皆様にも感謝申し上げます。共創を加速させてよりよい教育協カにつながるきっかけになったと思います。

詳細は、教育だより特別号 (10 月末公開予定) でご紹介しますので、楽しみに！

*開発コンサルタント、NGO/NPO、研究者、民間企業、JICA 等、国際教育協カに携わるアクターのプラットフォームです。「教育協カの知見共有の場」「連携事業を生み出す場」「人材育成・発掘・活躍の場」「発信・広報の場」という 4 つの機能を持っています。

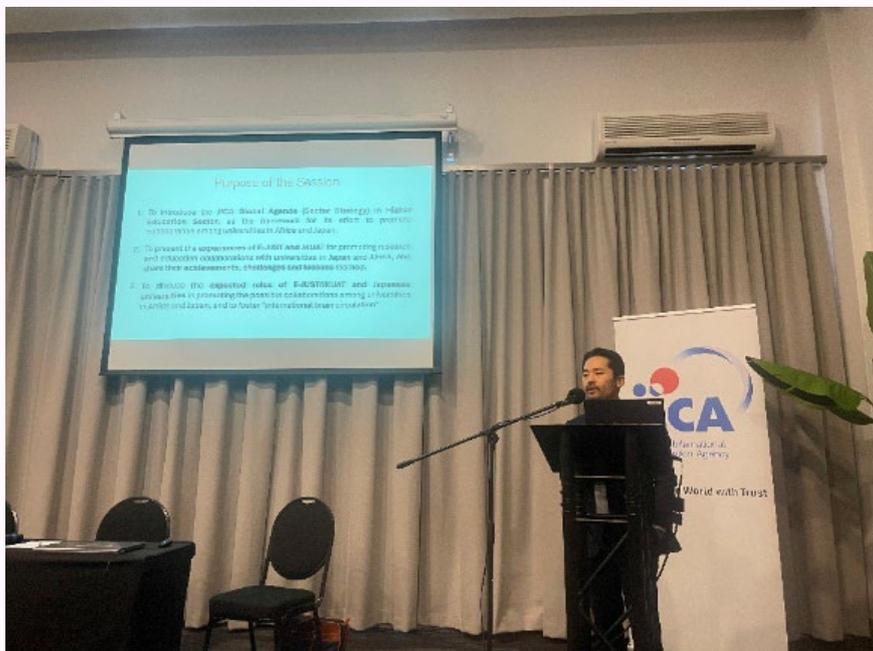


KKW 事務局 人間開発部 基礎教育グループ 深澤 智子・山縣 弘照

2024年8月27～29日に南アフリカのステレンボッシュ大学にて、高等教育分野における南アフリカと日本の学術交流の促進を目的とした「第6回 日本-南アフリカ大学フォーラム(SAJU)」が開催されました。

同フォーラムでは、技術協力を実施中の「エジプト日本科学技術大学 (E-JUST)」(エジプト) 及び「ジョモ・ケニヤッタ農工大学 (JKUAT)」(ケニア) と共に登壇。JICAからは、「拠点大学強化クラスター事業戦略」の概要とこれを踏まえた日本とアフリカの国際頭脳循環の促進を企図した「日本・アフリカ拠点大学ネットワーク構想」の説明を行い、E-JUST 及び JKUAT からは、アフリカ域内及び本邦大学との連携事例を紹介しました。

両国の大学、関連省庁、研究機関等から約50名が参加し、大学間連携の強化にあたり、本邦大学と豊富な連携実績を有する E-JUST と JKUAT がアフリカ域内及び本邦大学へ助言を行うこと等の期待が示されるとともに、研究・交流の促進にあたり外部資金獲得の重要性についても活発な意見交換が行われました。



(JICAの戦略について講演をする、人間開発部高等教育・社会保障グループ 上田大輔 次長)

人間開発部 高等教育チーム 企画役 望月 裕司

パプアニューギニアで新たに教科書が配布されています！

パプアニューギニアでは、今年4月に新たに初等1～2年生の算数の教科書が開発されました。Global Partnership for Education (GPE)による”Boosting Education Standards Together in Papua New Guinea Program (BEST PNGプログラム)”の一環として、学校図書株式会社の技術支援のもとで完成しました。JICA パプアニューギニア事務所は、GPEのドナー調整業務を担う”Coordinating Agency”であり、パプアニューギニア教育省とGPEとの円滑なコミュニケーションをサポートしてきました。

JICAでは2016～2019年に「理数科教育の質の改善プロジェクト (QUIS-ME)」によって、初等3～6年生の算数・理科の教科書・指導書を開発しました。この度完成した1～2年生の算数の教科書・指導書は、このQUIS-MEプロジェクトで開発されたものと一貫性を持った内容になっています。

およそ14万冊の算数教科書が、これから対象の6州に配布されます。

(参考：[Launching Ceremony for the National Mathematics Textbooks](#) | [Where We Work - JICA](#))

パプアニューギニアでは、さらに、QUIS-MEプロジェクトで開発した算数・理科の教科書・指導書の「インパクト評価」も実施されています。この「インパクト評価」では、教科書・指導書が行き届いていなかったセントラル州ゴイララ県の小学校およそ20校の児童に1人1冊の教科書、教員に指導書を配布し、その効果を測るという調査です。

調査チームは、今年4月と8月に現地を訪問しました(11月にも予定されています)。ゴイララ県は、首都の隣の州に属するものの、深い山間に位置し、部族ごとに異なる言語で生活している地域です。先生たちからは、教科書がなかったことで授業を計画するのに苦労していたという話も聞かれました。教科書・指導書が活用されることで、ゴイララ県の子どもの学びが改善されることが期待されます。

(参考：[Pupils smiling with new Math & Science textbook](#) | [Where We Work - JICA](#))

教科書を通じて、パプアニューギニアの児童の学びがますます改善されていくよう、今後も同国の教育の発展を支援していきます。



今年4月の「インパクト評価」のためのテストの様子



小学校で算数と理科の教科書を配布しました



モロッコで昨年開始した「公平な教育振興プロジェクトフェーズ2（PEEQ2）」について、2024年1月の調査を通じてモロッコ側と詳細計画を合意し、本格実施フェーズを開始しました。

本プロジェクトでは、5年前に終了した先行プロジェクトで開発した「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」を、その後の成果や課題をもとに強化することが要請されていました。一方で、詳細計画の策定に際し、政府の強力なイニシアチブによって進められている教育改革に鑑み、協力枠組みの一部を改訂することが求められました。

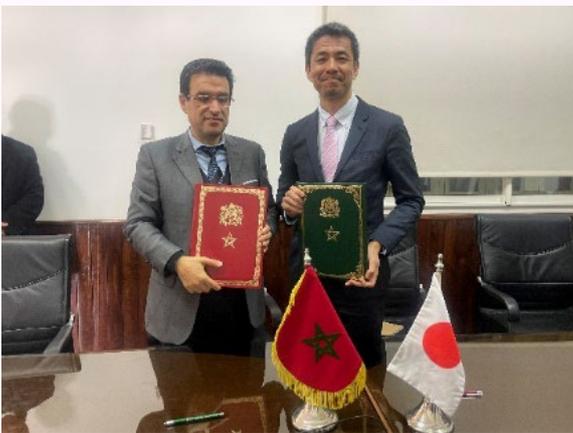
調査では、現在推進している教育改革の内容や教育省による要望を整理し、前期中等数学カリキュラムの改訂に係る支援を行うことを合意しました。

当初支援の軸としていた初等算数の教授・学習に関しては、詳細計画策定フェーズを通じた調査結果をもとに、同じく先行フェーズで支援した「統合型学校プロジェクト」の枠組みを活用し、コミュニティとの協働を通じたモデルの強化に取り組みます。

プロジェクトの専門家は、教育省関係者によって構成されたカリキュラム改訂委員会や教材作成委員会、州の教育・人材育成アカデミーとともに日々業務を行っており、これまでの活動や先行フェーズの成果を通じ、モロッコの現場からは厚い信頼が寄せられています。

本格実施フェーズでは、現在実施しているカリキュラムの改訂や授業内容詳細資料の作成に係る作業に加えて、正課内外における指導・学習活動の実施や、介入モデルの効果測定などを行っていきます。

引き続きプロジェクトでは、モロッコの教育省や行政官、コミュニティの関係者とともに、基礎教育の質と公平性の改善を目指します。



左：カウンターパートのモロッコ教育省次官とプロジェクト詳細計画策定調査団長



右：訪問した小学校の子どもたち



ガーナ「みんなの学校：コミュニティ参加型学習改善支援プロジェクト（Project for Improving Learning Outcomes through Community Participation for Sustainable School for All: COMPASS）」第1フェーズが、2024年3月に4年間のプロジェクト期間を終了（2020年3月開始）しました。

同フェーズは、2019年から2020年にかけて実施されたパイロット活動（ボルタ州50校）の成果を受けて、ボルタ州・オチ州・イースタン州の3州約1,800校を対象に実施されたものです。具体的には、民主選挙を通じた学校運営委員会（School Management Committee: SMC）の再設立、自立的な学校活動計画の策定、財務管理、SMCの広域ネットワーク（SMC連合）の設立、課外補習を中心とした学習成果改善活動から構成される「COMPASSモデル」を開発・推進しました。これにより、コミュニティ協働による学校運営の活性化を図るとともに、コミュニティに支えられた課外補習と効果的な算数教材の導入により、子ども達の基礎学力改善も目指しました。

このように大きな成果の達成に向けて、始まった第1フェーズですが、同フェーズ終了に至るまでには、二つの大きな困難に直面しました。一つは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、プロジェクト開始当初は日本人専門家が渡航できず、遠隔での支援となったことを受け、現地での実質の介入期間が3年間となってしまったことです。

もう一つは、対象地域3州において、実施地域が重なっていた世界銀行のプロジェクト、GALOP¹との調整です。COMPASS第1フェーズ開始当初はGALOP対象校も含めて活動していましたが、活動2年目の2021年8月、ガーナ教育省はGALOP対象校をCOMPASSの対象から外す方針転換しました。この方針は1年半で撤回されたものの、その間は多くの対象郡において、COMPASSが推進するSMC連合にGALOP対象校が参加できない状態となってしまいました。

このような現地での困難を乗り越え、最終的には「COMPASSモデルの他州展開への普及」という上位目標を念頭に、プロジェクト目標「COMPASSモデルの普及準備」が、ガーナ教育省及びガーナ教育サービスを中心とした教育行政関係者、プロジェクトチーム、そして対象3州約1,800校を取り巻くコミュニティ関係者の尽力により、無事に達成されました。

2025年初頭から開始予定のCOMPASSフェーズ2では、対象州を拡大しながら、「SMC及びSMC連合の機能化」や「算数補習活動の持続性の担保」などに取り組み、「COMPASSモデルの強化を通じた全国普及展開準備」を目指します。また、新たに現在JICA算数専門家が開発支援している算数教員用指導書を活用した「通常授業の学びの改善」と「補習活動」の融合モデルの開発にも取り組む予定です。COMPASSモデルの強化・発展を通して、ガーナの子ども達の教育支援をパワーアップしながら、継続していく予定です。



算数補習活動の様子（ムスリム系の多い学校）



SMC住民総会。（学校年間計画に耳を傾ける参加者）

人間開発部 基礎教育第二チーム 村田 良太

¹ GALOPとは、全国の困難を抱えるとされる学校を対象に世界銀行が主導する「学習成果のためのアカウンタビリティ強化プロジェクト（Ghana Accountability for Learning Outcomes Project: GALOP）」のこと。現在、ガーナの小中学校のおおよそ半数にあたる約10,000校が対象となっている。



2014年まで初等理数科教育強化プロジェクト（Strengthening Mathematics and Science Education in Nigeria: SMASE）を実施していたナイジェリアでは、2フェーズに亘るプロジェクトの終了後も、ナイジェリア政府自身が現職教員研修を通じた生徒中心型授業に係る理数科教員の能力強化に積極的に取り組み、合計13,000名以上の教員に対してSMASE研修が展開されています。

そのナイジェリアにおいて、教育政策目標の達成に向けた教育協力の再開を検討すべく、基礎教育アドバイザーが活動を開始し、SMASEプロジェクト実施時の初代専門家としてご活躍いただいた日下部専門家が、18年ぶりにナイジェリア連邦基礎教育委員会に着任しています。

さらに、ナイジェリア事務所による「ナイジェリア国基礎教育学びの改善へ向けた情報収集・確認調査」も開始し、理数科専門家の皆さまが現地における調査を開始しています。

人口も面積も大きくチャレンジングなナイジェリアですが、その特長も活かしながら、基礎教育アドバイザー・調査専門家・ナイジェリア事務所・基礎教育グループやアフリカ部が一丸となって、今後の協力可能性に向けた分析や議論を進めていきます。



ナイジェリアの小学校の子どもたち

ジブチでは、「みんなの学校：コミュニティ協働による教育改善プロジェクト」に係る基本合意文書（Record of Discussion: R/D）の9月中の締結に向けた準備が進んでいます。

ジブチにおける基礎教育のアクセス・質の課題に対し、ジブチ国民教育職業訓練省は、課題別研修「住民参加による教育開発」へ参加し、帰国後にはその経験をもとに学校運営委員会の機能化に取り組み始めました。2021年からは、「学校運営改善アドバイザー」を通じ、学校運営委員会機能化モデルに係る試行活動を行い、全国展開に向けたロードマップを策定しています。

本プロジェクトでは、アドバイザーによる活動の成果と課題をもとに、機能する学校運営委員会の全国普及や、学習の質向上に資する活動の定着を目指します。最初に学校運営委員会に係る取り組みを始めた元課題別研修参加者の公教育局長をはじめ、福井大学への研修参加者など、来日経験のある行政官によるプロジェクトへのオーナーシップにも期待が寄せられます。



左：カウンターパートのジブチ教育省次官、JICA ジブチ事務所長、プロジェクト詳細計画策定調査団長
右：訪問した小学校の子どもたち

人間開発部 基礎教育第二チーム 園田 理沙・安田 正宗

2024年8月より、「ウズベキスタン・日本青年技術革新センター（以下、UJICY）組織管理・自律発展能力強化プロジェクト（フェーズ2）」が開始されました。本案件は2019年1月～2024年3月まで実施されていた「ウズベキスタン・日本青年技術革新センター研究能力強化プロジェクト」の後継案件です。

本案件では、フェーズ1で培った若手研究者の研究能力や本邦大学とのネットワークを活用しつつ、UJICYの研究所としての経営・管理能力の強化や財政的自立に向けて、学術・産学連携の拡充を図ってまいります。具体的には、積極的な外部資金の獲得や本邦大学教員との共同研究を推進し、プロジェクト終了後も持続的な研究所運営ができるような取り組みを行う予定です。

UJICYがウズベキスタン国内における産官学連携のハブとなるよう、JICAは引き続き協力していきます。

人間開発部 社会保障チーム 荒井 梨菜



ホンジュラス国立自治大学（UNAH）は、JICA のプロジェクトを通じて、修士課程「国際協力と開発プロジェクト運営管理」（MCIGPD）のカリキュラムを見直し、関係者のマネジメント能力の向上や外部組織との研究交流を推進することで、同国の社会経済開発事業に貢献する人材育成の強化を図り、同事業の効果的かつ効率的な実施に貢献する人材の育成を目指しています。2024年7月、本プロジェクトを通じて作成支援を行った新カリキュラムが大学側に承認されました。これを受け、同年8月6日、UNAH および JICA の共同開催によって、「グローバル教育：国際化と開発協力」をテーマとした新カリキュラム発表イベントが開催されました。本イベントは、UNAH 学長による開会の辞から始まり、MCIGPD のこれまでの経緯・取組、新カリキュラムの概要、JICA および本プロジェクトによる協力概要などの報告とともに、MCIGPD プログラム紹介ビデオも上映されました。また、プロジェクトメンバーである上智大学の植木 安弘教授による講演では、グローバル時代における国際協力と高等教育の重要性が強調されました（同大学幡谷 則子教授代読）。さらに、新カリキュラム開発に携わった日本側関係者への謝辞が UNAH 側よりなされるとともに、JICA ホンジュラス事務所の篠 克彦所長からもスピーチがありました。篠所長は、ホンジュラスの社会経済発展に寄与するためのプログラムの重要性を強調し、特に人材育成が最も重要であることをイベント参加者へ伝えました。イベントの最後は、国際関係副学長による感謝の意で締めくくられ、総勢 70 名を超える参加者からは惜しみない拍手が送られました。

現在、MCIGPD 修士課程では、第 3 期生が卒業論文作成に取り組んでおり、また、今回承認された新カリキュラムは第 4 期生から導入されるべく手続きが進められています。本プロジェクトでは、引き続き MCIGPD 強化に向けて、UNAH 側教職員と協働していく所存です。



UNAH キャンパス風景



会場の様子



UNAH 学長 開会の辞



表彰の様子



2024年6月、エジプトで技術協カプロジェクト「エジプト・日本高専プロジェクト（EJ-KOSEN）」を開始しました。

エジプトの日本式教育への関心は、2010年に開設されたエジプト日本科学技術大学（E-JUST）や2018年のエジプト日本学校（EJS）からも見られるように非常に高く、エジプトでは、産業界のニーズに応える質の高い教育システムが必要とされていることから、日本の高等専門学校（以下、高専）システムの導入への要請を受けました。

本プロジェクトでは、質の高い工学教育の新ブランドとしてエジプトに高専を導入し、日本の国立高専と同質の教育を保証するため、国立高専教育国際標準（KIS）認定取得を目指しています。早期の開校実現に向けて、現地に長期専門家が派遣され、専門家を交えたカリキュラムの検討やキャンパス候補地の視察等を進めています。

マレーシアでは、マラヤ大学の校内に筑波大学マレーシア分校が設置され、2024年9月2日に開校式・入学式が行われました。式典ではマレーシア人と日本人の新生入生13名が出席しました。JICAは、マラヤ大学に対して筑波大学マレーシア分校を通じた支援を行う予定で、主に機材供与や産学連携の分野で協力をしています。マラヤ大学は筑波大学マレーシア分校との連携を通じて、日本やアジア地域の大学との教育・研究プログラムや、マレーシアの日系企業等との共同研究等を促進し、高等教育における日馬の連携の中心となることが期待されています。



筑波大学マレーシア分校校舎



6月27日(木)、「第28回教育セクターにおけるJICA・コンサルタント勉強会」が開催され、JICA関係者と開発コンサルタント合わせて約100名が参加しました。本勉強会は、各国・各地域の課題解決に資する教育協力の実現に向け、開発コンサルタントとJICAで互いに協議し事業に反映していくことを目指し年2回程開催しているものです。

前半では、前回勉強会の意見交換を踏まえ最終化した「[誰ひとり取り残さない教育の改善クラスター事業戦略](#)」の完成報告を行い、このクラスターで進めていくジェンダー主流化・障害主流化の検討状況をJICAから共有しました。後半では、障害主流化の案件事例(スリランカ・ウズベキスタン・モンゴル・課題別研修)を担当コンサルタントの皆様よりご紹介いただきました。

時間の制約から意見交換は十分にできませんでしたが、事後アンケートでは、ジェンダー・障害主流化の具体的な展開に係る多数のご意見をいただきました。頂いたご意見を踏まえ、引き続き具体的な検討を進めていきます。

今回は、数年ぶりに対面・オンラインのハイブリッド開催でした。対面開催により参加者間の関係構築や透明性のある意見交換につながったという声をいただきました。コロナ後の働き方の変化に伴いオンライン会議が主流になっていますが、今後もハイブリッド開催を継続したいと思います。次回は、2024年11～12月頃を予定しています。

【プログラム】

時間	内容
16:00～16:05	開会挨拶
16:05～16:45	1.誰ひとり取り残さない教育改善クラスター検討状況 ① 戦略ペーパー最終版の紹介 ② ジェンダー主流化の方針案の説明 ③ 障害主流化の方針案の説明 ④ 質疑応答
16:45～17:15	2.障害児教育/インクルーシブ教育案件専門家からの事例共有及び障害主流化に向けた提案 ① スリランカ・ウズベキスタン案件からの事例共有 ② モンゴル案件及び課題別研修からの事例共有 ③ 質疑応答
17:15～17:25	3.その他
17:25～17:30	閉会挨拶
18:00-19:00	懇親会

人間開発部 基礎教育第二チーム 村上 啓子



JICA 人間開発部基礎教育グループでは、今年度は「子どもの学びの改善」と題して 10 月 15～18 日の 4 日間、能力強化研修を対面で開催しました。これまでの JICA 事業や国際協力経験の有無にかかわらず、国際教育協力に関心がある方を広く対象とし、例年より多くの受講生に参加いただきました。

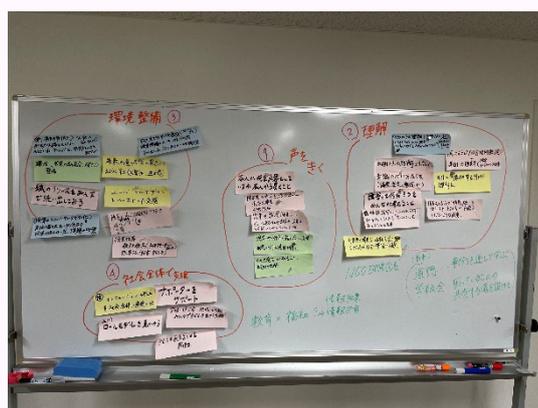
今年度の研修目的である「JICA 教育協力の考え方（3つのクラスター戦略²）や実際の事業経験を共有することを通して、途上国における JICA 教育協力の理解促進とともに国際協力人材としての素地を養い、今後の同分野に関わる人材育成の一環とする」を基に研修を構成しました。具体的には、研修初日は JICA の教育協力概要を中心に、国際的な教育協力及び JICA の教育協力の変遷や課題別事業戦略（グローバルアジェンダ）、日本における学力調査の学びの改善への活用の事例を説明いただきました。研修 2 日目から 4 日目にかけては、研修の核となる基礎教育協力の 3つのクラスター戦略に対して 1 日ずつ割り当て、国際協力専門員や専門家、コンサルタント、大学教授の方々を講師として、事例紹介や演習を交えてご講義いただきました。また、JICA 事業に関わる様々なキャリアパスを紹介する時間も設けました。

前向きな姿勢で取り組む受講生によって、研修会場は生き活きとした雰囲気になっていました。本研修が、受講生の今後に少しでも役立つものとなることを願います。

参考リンク [能力強化研修 | JICA について - JICA](#)



全体講義



グループごとの振り返りボード

人間開発部 基礎教育第一チーム 山上 莉奈

² JICA は、日本の強みを活かした協力を重点的に取り組み、他課題については、他の開発パートナーとの連携等を通じ、総合的な成果の発現を目指しています。基礎教育分野におけるクラスター戦略は、①教科書・教材開発を中心とした学びの改善クラスター②コミュニティ協働型教育改善クラスター③誰ひとり取り残さない教育改善クラスターの 3 つです。[教育 | 事業について - JICA](#)

JICA が作成した算数アプリ「JICAL」が完成しました！

途上国での理数教育支援の経験を活かし、子どもたちの基礎計算力の定着を支援するために開発したツールです。

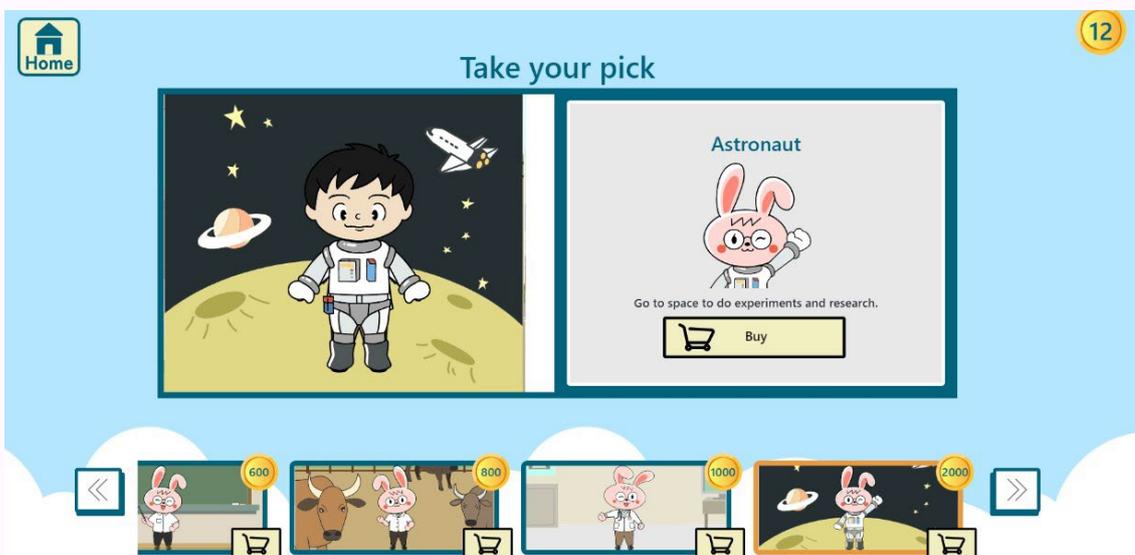
データベースと端末を仲介する「Edge サーバー」を各教室に設置し、不十分なオンライン環境でもデータの大きいコンテンツでの学習が可能になりました。学習定着のために、「診断テスト」、「動画学習」、「例題学習」、「問題演習」、「まとめテスト」の 5 つの学習機能を備えています。Edge サーバーから端末にデータをダウンロードすることでオフラインでも利用できるように設計し、家庭学習が可能になるなど、途上国における ICT 活用の可能性を広げるためのアプリとなっています。

また、UNICEF が提供する学習プラットフォームの仕様に合わせて開発をしています。このプラットフォームに「JICAL」を載せることで、多くの子ども達に利用してもらえるよう、普及戦略において UNICEF と協議を進めています。

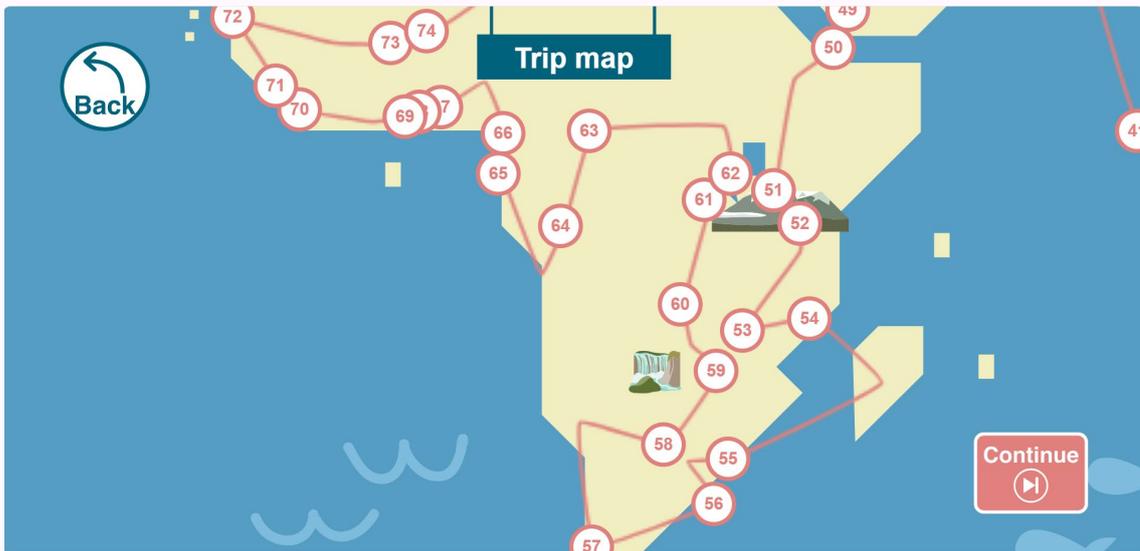
その他、ひっ算の計算手順が誘導されるようになっていたり、ゲーミフィケーションにより意欲を引き出したり等の特徴あるアプリになりました！パプアニューギニアや UNICEF ザンビアでのトライアルを通じて、学習効果の検証を続けていきます。



「JICAL」トップ画面



アバターの職業選択



問題の選択画面（世界地図上で学習を進めていきます）

人間開発部 基礎教育第一チーム 橋本 裕保



広報・マーケティング
好事例

JICA グローバル・アジェンダ（教育）の動画の 英語・フランス語・スペイン語版が完成しました！

前号でご案内しました JICA グローバル・アジェンダ（教育）動画の日本語版に続き、この度、英語、フランス語、スペイン語が完成しました。本動画は、JICA の事業戦略であるグローバル・アジェンダの基礎教育分野について、教育協力関係者のみならず幅広い対象者に向けて分かりやすく伝えるために作成しました。そうしたことから、今回 3 言語に翻訳されたことで、日本だけでなく、教育協力を行っている国の現地の皆様にも届くようにできればと考えています。

JICA のこれまでの基礎教育支援の歩みや JICA がどのように教育協力を行っているのかをアニメーション付きで現地の様子も入れながら、視覚的に伝えておりますので、ぜひ現地の皆様ともシェア・拡散いただけますと幸いです。

- ・英語版 https://youtu.be/3s_3a_GbTqk
- ・フランス語版 <https://youtu.be/YWSP488Jr-w>
- ・スペイン語版 <https://youtu.be/GFr-Dm1P3dw>

※英語版 HP : [Education | What We Do - JICA](#) に掲載しています。

※日本語版はこちら→[一人ひとりが生き生きと輝く、質の高い教育を ～JICA の基礎教育協力～](#)

※日本語版 HP : [教育 | 事業について - JICA](#)



Quality Education where each individual shines with vitality - JICA's Basic Education Cooperation -



Una educación de calidad que permita a todas las personas dar lo mejor de sí mismas



Une éducation de qualité permettant à tous les individus de donner le meilleur d'eux-mêmes

人間開発部 基礎教育グループ 岩瀬 倫代

**【インターンシップを通じて学んだ国際協力の新たな姿】**

本インターンでは、教育協力ウィーク運営やリサーチ業務に合わせて、様々な部署や案件に関する説明をいただく機会を得ました。特に教員研修、ICT 活用、事業評価について深く学び、国際協力の実践的な知見を得ることができました。

インターンを通じて、現在の国際情勢において、JICA に求められる役割が「一方的な支援」から「世界と共に価値を創造していく」へと変化していることを強く認識しました。多様なアクターを繋ぎ、新たな価値と変革を生み出す JICA の機能の重要性を実感しました。

また、職員や関係者の皆様が、それぞれ理想とする世界の実現に向けて熱意を持って取り組まれている姿に感銘を受けました。同時に、課題や制約を乗り越え、既存の環境を最大限に活用して目標達成を目指す姿勢の重要性も学びました。

この貴重な経験を糧に、私も国際協力の分野で貢献できるよう、一層の努力を重ねてまいります。ご指導いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



人間開発部 基礎教育グループ インターン
一橋大学経済学部 4年 田中颯瑛

【JICA ではたらくということ】

人間開発部基礎教育グループにインターンさせていただいた、早稲田大学文化構想学部三年の筑本普です。大学では障害、ジェンダー、セクシュアリティなどマイノリティについて学んでいます。

インターンでは、教育協力ウィークのサマリーを作成したり、職員の方からブリーフィングをいただいたりしました。その中で、外からは見えなかった JICA の姿や役割に触れ、国際協力において JICA のすべきこと、できることが明確化されました。同時に、現在の教育協力の抱えている課題や可能性についても考えを深め、今後の進路を考えていく上で、自分は何をしたいのかについて改めて考えるきっかけとなりました。まだ自分の進む道が見えたわけではありませんが、このインターンを通じて得た気付きや経験は、どの道に進んでも生きてくるものであると確信しています。改めまして、受け入れてくださった職員の皆様、ありがとうございました。



人間開発部 基礎教育第一チーム インターン
早稲田大学文化構想学部三年 筑本普

【国際化推進における JICA の役割を学んで】

人間開発部高等・技術教育チームで一ヶ月間インターンシップをさせていただきました、早稲田大学修士1年の川邊永麗菜です。この度、「国際頭脳循環」をキーワードとして本邦大学の国際協力に関する知見を深め、自身の課題テーマとしては筑波大学マレーシア分校の設立に着目し、高等教育の国際化を通じた高度人材育成について多くの学びを得ることができました。特に、専門家や職員の方とのインタビューを通して、留学生の受け入れや共同研究促進の土台となる「人と人の繋がり」の重要性を感じました。そして、この関係を構築するには、留学先として日本を選択してもらうための環境整備や、大学の更なる国際化に、JICA 職員の方々の働きかけが大きく貢献していることを実感し、私自身もこのように国際協力の戦力となり、国際化分野に携わりたい気持ちを強くしました。最後となりましたが、手厚くご指導頂いた高等・技術教育チームに心から感謝を申し上げます。



人間開発部 高等・技術教育チーム インターン
早稲田大学アジア太平洋研究科修士1年 川邊永麗菜

【高等・技術教育チームでのインターンシップを通して】

8月19日から9月13日まで高等・技術教育チームでインターンシップをさせていただきました。本インターンシップでは、職員の方々から案件ブリーフィングを受けた後、それらに関してインターン自身が興味を抱いたテーマを設定し、調査・分析を行いました。私は、JICA における教育事業評価というテーマを設定し、事業評価に関する文献調査と人間開発部の専門家や評価部の方々にインタビューを実施しました。最終日には、高等教育事業評価の課題とその克服のための新たな可能性について提案させていただきました。本インターンシップを通して、専攻分野である教育に関する知見を深めるだけでなく、職員の方々の日々の業務の姿などから教育開発に対する想いに触れ、学業のモチベーションを高めることもできました。将来、教育開発に携わりたいことを希望するものとして、今回の経験を活かし、これからも勉学に励みたいと思います。末筆になりますが、職員の方々の温かいご指導とご支援に深く感謝申し上げます。



1階の受付の前にて



高等教育チーム インターン生2名とチームの皆さんとの写真

人間開発部 高等・技術教育チーム インターン
神戸大学国際協力研究科修士2年 横川野彩

【編集後記】

毎年記録を更新している猛暑もようやく終わり、皆様におかれては、読書、スポーツ、仕事？に集中できる秋を満喫されていることと思います。教育だより 42 号は今年の猛暑の中で行われた活動満載でお届けしました。それら活動の中でも、本編集後記では、教育協力ウィークに関するインターンの声に注目したいと思います。

教育協力ウィークについて、インターンに感想を聞いたところ、必ずしも開かれたフォーラムとは言えず、参加者がまだまだ既存の関係者に限られているという指摘を頂きました。確かに、我々関係者が考え実施するアウトリーチ活動は、既存の枠組みの中に限られていたのだらうと思います。

これまでに思いつかなかったような方法で、これまで接点が無かったような方々と繋がり、新しい化学反応が起きることで、“共創”が実現すると思います。教育協力ウィークや、我々の発信媒体としての本教育便りをツールとして使い、新しい共創を生み出せたらと、本号を読みながら秋の夜長に考えました。

人間開発部 基礎教育第一チーム 課長 田口 晋平

「教育ナレッジマネジメントネットワーク (KMN)」とは

JICA 教育ナレッジマネジメントネットワーク(KMN)は、JICA の教育協力事業の質向上を目標に、JICA の教育協力に関する知見や経験を一元的に蓄積し、事業に活かすとともに対外的に発信するために、人間開発部を中心に活動を行っています。具体的には、①戦略（事業戦略、ドナー連携等）、②ナレッジの創造（プロジェクト研究、インパクト評価等）、③ナレッジの共有（民間・大学とのネットワーキング）、④広報（ナレッジの蓄積・発信）等の活動を実施しています。「教育だより」では、こうした教育 KMN の取組のほか、教育協力に関わる国際的な動向や実施中の案件情報等をあわせてお伝えしていきます。教育 KMN および JICA 基礎教育、高等・技術教育、社会保障グループからの各種お知らせを希望の方は、

(1)名前、(2)ふりがな、(3)所属、(4)役職、(5)職業、(6)E メールアドレスを明記のうえ、kadaishien-ningen@jica.go.jp までお送りください。